

大学等と連携し農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」を推進

大学、生産者及び大型商業施設等と連携し、農産物の環境負荷低減の「見える化」の推進に取り組む、「みえるらべる」の認知度向上と更なる横展開を図った。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

（農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」）

○ きっかけ・背景、課題の把握

環境に配慮した農産物に対する消費者の関心が購買行動に結びついていないと考え、「みえるらべる」の認知度向上が消費者の行動変容につながるなどの観点から、畿央大学健康栄養学科 野原潤子研究室と「見える化」推進の取組を検討。

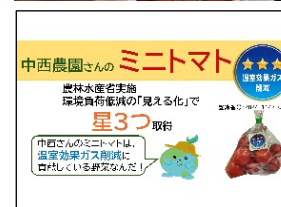
○ 取組の内容

畿央大学、中西農園、イオン大和郡山店、大和郡山市、奈良県拠点が連携して取組を実施。ミニトマトの無加温栽培に取り組む生産者の協力のもと「☆」3つを獲得し、店舗にて「みえるらべる」商品の販売を行った。また畿央大学は、「みえるらべる」貼付のみの販売とPOPの掲示やレシピ配布と併せた販売と比較し、消費者の意識と購買行動の変化を調査。「見える化」の効果的な普及を検討。

○ 効果・成果、今後の方向性

- ・複数品目での取組が消費者への効果的な周知となることから、大和郡山市と県拠点が連携し、新たな生産者に働きかけを行い、いちごの「見える化」登録と販売を開始。
- ・大和郡山市は、同市4Hクラブメンバーへの「見える化」取組の横展開を進め、新たにに取り組む生産者が増加。
- ・県拠点では大学との連携を機に、学生を対象としたパネル展示を開催するなど次代を担う若者への「みどり戦略」の普及啓発に繋がった。
- ・今回の取組を機に「見える化」の横展開が図られたことから、今後も関係機関と連携した取組を推進する。

《イオン大和郡山店での販売状況》



「アスグリ」

レシピ・啓発チラシ、店頭POP及び親しみやすいキャラクター「アスグリ」は、畿央大学 野原潤子研修室学生が作成

体制図

